



平成24年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月30日

上場会社名 アサヒグループホールディングス株式会社

上場取引所 東 大

コード番号 2502 URL <http://www.asahigroup-holdings.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉谷 直木

問合せ先責任者 (役職名) 広報部門ゼネラルマネージャー (氏名) 爲定 一智

TEL 03-5608-5126

四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第3四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第3四半期	1,139,190	6.9	67,680	△11.9	71,080	△13.7	45,586	26.8
23年12月期第3四半期	1,066,116	△2.7	76,784	22.2	82,396	18.7	35,942	36.5

(注) 包括利益 24年12月期第3四半期 57,870百万円 (266.3%) 23年12月期第3四半期 15,798百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第3四半期	97.86	97.80
23年12月期第3四半期	77.22	77.17

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第3四半期	1,560,639	689,858	44.0
23年12月期	1,529,907	643,798	41.9

(参考) 自己資本 24年12月期第3四半期 687,196百万円 23年12月期 641,732百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	11.50	—	13.50	25.00
24年12月期	—	14.00	—		
24年12月期(予想)				14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,569,000	7.3	113,000	5.4	118,000	6.4	65,000	18.0	139.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年12月期3Q	483,585,862 株	23年12月期	483,585,862 株
② 期末自己株式数	24年12月期3Q	17,668,158 株	23年12月期	17,950,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期3Q	465,818,901 株	23年12月期3Q	465,462,910 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
4. 追加情報	12
(1) 補足資料	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日～9月30日）における世界経済は、ユーロ圏の債務問題に加え、その影響による米国や中国などの景気の減速感が強まり、引き続き厳しい状況が続きました。

わが国経済におきましては、復興需要をはじめとする国内需要が下支えしたものの、先行き不透明な海外景気に対する懸念から輸出が低迷したことなどにより、景気は横ばいの状況となりました。

こうした状況のなかアサヒグループは、「中期経営計画2012」の最終年度である本年度において、各事業における主力商品のブランド強化に経営資源を集中するとともに、引き続きコスト競争力を強化することによりグループ全体の収益性の向上に取り組みました。

その結果、アサヒグループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1兆1,391億9千万円（前年同期比6.9%増）となりました。一方、営業利益は、前年度に震災関連費用を特別損失に振り替えた反動や積極的なマーケティング投資による広告販促費の増加などにより、前年同期比11.9%減の676億8千万円となりました。経常利益は710億8千万円（前年同期比13.7%減）、四半期純利益は455億8千6百万円（前年同期比26.8%増）となりました。

当四半期のセグメントごとの概況

(単位：百万円)

	売上高	前年同期増減	前年同期比	営業利益	前年同期増減	前年同期比
酒類	670,784	874	0.1%	76,622	6,491	9.3%
飲料	264,933	18,457	7.5%	4,898	△6,429	△56.8%
食品	73,470	2,725	3.9%	1,503	△859	△36.4%
国際	110,358	48,902	79.6%	△6,200	△2,411	—
その他	19,643	2,115	12.1%	72	△412	△85.1%
調整額	—	—	—	△9,215	△5,481	—
合計	1,139,190	73,074	6.9%	67,680	△9,103	△11.9%

酒類事業

酒類事業につきましては、「アサヒビール株式会社」がお客様の求める価値の創出・提案により、総需要の拡大に努めるとともに、収益構造の改革に取り組みました。

(ビール類)

ビールにおいては、基幹ブランドである『アサヒスーパードライ』が業務用・家庭用の両市場で『アサヒスーパードライ エクストラコールド』を引き続き拡大展開するとともに、9月に『アサヒスーパードライ ドライブラック』の業務用樽生ビールを発売するなど、ブランド力の育成・強化に注力した結果、ビールカテゴリー合計では前年同期を上回る販売数量となりました。

発泡酒においては、健康意識の高まりを背景に“糖質ゼロ”のパイオニア『アサヒスタイルフリー』が、消費者キャンペーンや広告展開などを積極的に実施いたしました。

新ジャンルにおいては、主力ブランドである『クリアアサヒ』が、積極的な広告展開や“ロンドンオリンピック日本代表応援”デザイン缶を発売するなど、ブランド力の強化を図りました。また、オリンピック開催時期に合わせた『アサヒジャパンゴールド』などの期間限定商品を発売し、お客様の多様化するニーズに対応した商品を提案いたしました。

海外の『アサヒ』ブランド商品においては、アジア・オセアニア地域を中心に現地パートナーとの提携強化により、各市場における『アサヒスーパードライ』のブランド力を高める取組みを推進いたしました。その結果、韓国、中国、香港、タイの販売数量が前年同期を大きく上回るなど、全体の売上も好調に推移いたしました。

(焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワイン・その他酒類等)

焼酎においては、『麦焼酎かのか』のリニューアルや9月の『かのか 焼酎ハイボール』の発売などにより、基幹ブランドである『かのか』のブランド価値の向上を図りました。業務用商品についても希少品種“暁紫（あけむらさき）”を使用した『本格芋焼酎 薩摩こく紫』を中心に、積極的な販促活動に取り組みました。

低アルコール飲料においては、基幹ブランドである『アサヒ S l a t（すらっと）』『アサヒカクテルパートナー フワリッチ』のリニューアルに加え、『アサヒスパークス』の新フレーバーを発売するなど、ブランドの強化を行いました。また、『アサヒチューハイ果実の瞬間』の「贅沢みかんテイスト」を9月にリニューアルし、新規需要の拡

大を図りました。

洋酒においては、主力商品である『ブラックニッカ クリア』が、広告展開や消費者キャンペーンを展開するなど、拡販に努めました。また、『竹鶴』ブランドでは、3月に『ニッカ 竹鶴17年ピュアモルト』が「WORLD WHISKIES AWARDS 2012」※で“ワールド・ベスト・ブレンデッドモルト・ウイスキー”を受賞するなど高い評価を得ており、業務用市場での更なる取扱いの拡大に取り組むとともに、家庭用市場でも『ニッカ 竹鶴12年ピュアモルト』瓶500mlを発売するなど、ブランドの強化を図りました。

ワインにおいては、国産ワインでは、気軽に楽しめる味わいとペットボトルの利便性により新規需要を開拓した『サントネージュ リラ』のペットボトル320mlを9月に発売し、更なる商品認知の向上に取り組みました。輸入ワインでは、低価格・高品質のチリワイン『サンタ・ヘレナ・アルパカ』やスペインワイン『ヴィニャ・アルバリ』など、多彩な商品のラインアップを活かした拡販に努めました。

その他酒類等においては、2月に発売したビールテイスト清涼飲料『アサヒドライゼロ』が引き続き好調に推移いたしました。また、9月にはカクテルテイスト清涼飲料『アサヒゼロカク』を発売するなど、ノンアルコール飲料市場における存在感の拡大に取り組みました。

※英国のウイスキー専門誌「ウイスキーマガジン」が主催する、ウイスキーのみを対象とした国際コンテストです。

収益構造改革面では、8月末に西宮工場から吹田工場への機能統合が完了し、関西地区の最適生産物流体制を構築いたしました。

以上の結果、酒類事業につきましては、ビールテイスト清涼飲料の販売数量が増加したことなどにより、売上高は前年同期比0.1%増の6,707億8千4百万円となりました。営業利益は、減価償却費などの固定費の効率化などにより、前年同期比9.3%増の766億2千2百万円となりました。

飲料事業

飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」が「成長戦略」と「構造改革」を基本戦略として、飛躍的な成長基盤の構築に向けた取組みを強化いたしました。

成長戦略の根幹をなす商品戦略では、基幹ブランドである『三ツ矢』『ワング』『アサヒ十六茶』に、6月より新たなブランドとして展開している『アサヒおいしい水』を加え、引き続きブランドの強化・育成を積極的に進めました。また、『パヤリース』『ウィルキンソン』などのロングセラーブランドの活性化に取り組むとともに、5月に発売したエナジードリンク『モンスターエナジー』ブランドが好調に推移したことなどにより、販売数量は市場を大きく上回る成長となりました。

「株式会社エルビー」は、継続的な商品提案を行った乳飲料カテゴリーや果汁飲料カテゴリーが好調に推移いたしました。また、エナジードリンク『メガエナジー』などの個性的な商品や新たに提案したカップ商品の積極的な拡販に取り組みました。

以上の結果、飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」が大幅に売上を伸ばしたことにより、売上高は前年同期比7.5%増の2,649億3千3百万円となりましたが、営業利益は、主に積極的な販促投資などにより、前年同期に比べ64億2千9百万円悪化し、48億9千8百万円となりました。

食品事業

食品事業につきましては、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」が既存商品の更なる強化や新商品の開発、市場の開拓などを通じて売上上の拡大を図りました。

主力商品のミント系錠菓『ミンティア』、バランス栄養食品『バランスアップ』、栄養調整食品『1本満足バー』、サプリメント『ディアナチュラ』、ダイエットサポート食品『スリムアップスリム』における新商品の発売とリニューアルを行うとともに、積極的な広告展開を実施したことにより、同社全体としても堅調に推移いたしました。

「和光堂株式会社」では、「新たなステージへの挑戦」を経営方針として、ベビーフード・育児用粉乳の市場における存在感の向上や業務用・食品原料での商品開発や新規顧客獲得による収益基盤の強化に取り組みました。また、高齢者向け事業を将来の柱へと育成するために、ドラッグストア向けを中心に『食事は楽し』などの商品ラインアップの拡充や営業体制の強化を行いました。

「天野実業株式会社」では、国内トップレベルのフリーズドライ技術を活かした販路拡大と機能性の高いフリーズドライ食品の認知度向上に取り組み、事業の成長を図りました。

流通販売事業は、量販店での取扱店舗数の増加に加え、『服部幸應推薦フリーズドライカレー』やフリーズドライ味噌汁のセット商品『美味しい瞬間』を発売したことなどにより、売上が拡大いたしました。通信販売事業も、積極的な広告宣伝活動により引き続き好調に推移いたしました。

以上の結果、食品事業につきましては、グループ各社がブランド強化に取り組んだことにより、売上高は前年同期比3.9%増の734億7千万円となりましたが、営業利益は、前年度の震災関連費用を特別損失に振り替えた影響などにより、前年同期比36.4%減の15億3百万円となりました。

国際事業

中国事業においては、中国国内向け『アサヒ』ブランドのビール生産機能の「北京啤酒朝日有限公司」への集約化に取り組み、現地生産体制の強化による収益性の改善と品質の向上を図りました。

オセアニア事業においては、地域統括会社である「Asahi Holdings (Australia) Pty Ltd」を中心に、各社の間接部門の統合や共同調達などを実施し、酒類・飲料を横断した総合飲料事業としての収益基盤の強化を図りました。飲料事業では、子会社間における営業の一部統合や製造機能移管による最適な生産体制の構築など、シナジー創出に向けた基盤整備を行いました。また、酒類事業では、『アサヒスーパードライ』の販売機能を、豪州に続いてニュージーランドでも、グループ傘下の「Independent Liquor」グループへ移管いたしました。

東南アジア事業においては、マレーシアの清涼飲料会社「Permanis Sdn. Bhd.」が、競争環境が激化するなか、強みである営業力、商品力を活かし、積極的な投資により市場での地位向上を推進いたしました。また、インドネシア最大手の食品会社「PT Indofood CBP Sukses Makmur Tbk」と同国における清涼飲料事業の合弁会社を設立し、今後も成長が見込まれる東南アジア地域の事業基盤の強化を図りました。

以上の結果、国際事業につきましては、既存連結子会社における売上拡大に加え、新規連結子会社の業績の上乗せ効果により、売上高は前年同期比79.6%増の1,103億5千8百万円となりました。営業損失は、中国事業の収益性の改善や新規連結子会社の業績貢献などがあったものの、新規連結子会社ののれん償却費の増加などにより、前年同期に比べ24億1千1百万円悪化し、62億円となりました。

その他の事業

その他の事業については、売上高は前年同期比12.1%増の196億4千3百万円となりました。営業利益は前年同期比4億1千2百万円悪化の7千2百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて307億3千2百万円増加しております。これは、主に手元流動性の確保により現金及び預金が増加したことや当社の持分法適用関連会社である「康師傅飲品控股有限公司」と米国飲料大手の「PepsiCo, Inc.」との戦略的提携に伴い持分変動利益が発生したことなどにより投資有価証券が増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて153億2千7百万円減少しております。これは、借入金等の返済により金融債務（短期借入金、1年内償還予定の社債、コマーシャル・ペーパー、社債、長期借入金の合計）が減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ460億5千9百万円増加しております。これは、主に四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことや、豪ドルなどの為替相場の変動に伴い為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の41.9%から44.0%に増加しました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年度の通期の業績につきましては、平成24年8月2日に公表しました業績予想から変更ありません。

(参考) 平成24年8月2日公表業績予想

	アサヒグループ	
売上高	1,569,000百万円	(前期比 7.3%増)
営業利益	113,000百万円	(前期比 5.4%増)
経常利益	118,000百万円	(前期比 6.4%増)
当期純利益	65,000百万円	(前期比 18.0%増)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項**(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動**

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(追加情報)

持分法の適用に関する事項

「康師傅飲品控股有限公司」及びその関係会社は、従来、同社の事業年度である12月決算数値をもって持分法投資損益を算出しておりましたが、業績に関する開示及び意思決定の迅速化を図るため、当連結会計年度から9月30日現在で実施する仮決算に基づく財務諸表を基礎として持分法投資損益を算出する方法に変更いたしました。

ただし、前連結会計年度において、連結決算日12月31日現在の同社の財務諸表を基礎として持分法投資損益を取り込んでいることから、当連結会計年度においては同社の9ヶ月間の決算数値を基礎とした持分法投資損益を取り込むこととなります。

なお、これに伴い、第1四半期連結会計期間においては、同社の持分法投資損益の取り込みは行っておりません。

「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,893	33,949
受取手形及び売掛金	279,596	265,669
商品及び製品	70,400	79,211
原材料及び貯蔵品	32,229	34,014
繰延税金資産	12,982	13,210
その他	48,369	54,016
貸倒引当金	△3,326	△4,575
流動資産合計	457,145	475,496
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	399,002	400,665
減価償却累計額	△234,330	△242,037
建物及び構築物（純額）	164,671	158,627
機械装置及び運搬具	502,091	513,011
減価償却累計額	△378,636	△395,322
機械装置及び運搬具（純額）	123,455	117,688
その他	148,801	158,478
減価償却累計額	△82,101	△89,188
その他（純額）	66,699	69,289
土地	176,054	176,336
建設仮勘定	5,354	8,168
有形固定資産合計	536,236	530,111
無形固定資産		
のれん	184,407	176,300
その他	49,880	58,690
無形固定資産合計	234,288	234,991
投資その他の資産		
投資有価証券	236,099	257,804
繰延税金資産	28,950	26,556
その他	42,842	39,311
貸倒引当金	△5,655	△3,631
投資その他の資産合計	302,237	320,040
固定資産合計	1,072,762	1,085,143
資産合計	1,529,907	1,560,639

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	104,527	111,205
短期借入金	136,679	132,567
1年内償還予定の社債	25,000	—
未払酒税	111,063	111,684
未払法人税等	25,018	17,829
預り金	18,931	14,757
コマーシャル・ペーパー	28,000	21,000
賞与引当金	3,051	8,129
その他	149,894	143,206
流動負債合計	602,166	560,379
固定負債		
社債	160,133	188,124
長期借入金	40,279	33,028
退職給付引当金	21,854	22,462
役員退職慰労引当金	372	192
資産除去債務	478	448
繰延税金負債	6,601	10,802
その他	54,222	55,342
固定負債合計	283,942	310,401
負債合計	886,108	870,781
純資産の部		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	150,788	150,666
利益剰余金	338,809	371,580
自己株式	△28,295	△27,852
株主資本合計	643,833	676,925
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,685	1,725
繰延ヘッジ損益	1	3
為替換算調整勘定	584	8,542
その他の包括利益累計額合計	△2,100	10,271
少数株主持分	2,065	2,661
純資産合計	643,798	689,858
負債純資産合計	1,529,907	1,560,639

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1,066,116	1,139,190
売上原価	656,397	704,690
売上総利益	409,719	434,500
販売費及び一般管理費	332,934	366,819
営業利益	76,784	67,680
営業外収益		
受取利息	232	285
受取配当金	735	837
デリバティブ評価益	3,529	167
持分法による投資利益	5,995	7,370
その他	839	1,085
営業外収益合計	11,333	9,746
営業外費用		
支払利息	2,680	3,020
為替差損	895	681
その他	2,144	2,643
営業外費用合計	5,720	6,345
経常利益	82,396	71,080
特別利益		
固定資産売却益	191	314
投資有価証券売却益	2	12
関係会社株式売却益	4,596	201
貸倒引当金戻入額	1,521	—
持分変動利益	—	8,088
その他	—	525
特別利益合計	6,311	9,142
特別損失		
固定資産除売却損	1,609	1,986
投資有価証券評価損	1,730	1,132
関係会社整理損	18	—
工場再編関連損失	713	1,459
震災関連費用	16,185	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	460	—
事業統合関連費用	3,659	3,255
その他	1,850	486
特別損失合計	26,227	8,321
税金等調整前四半期純利益	62,480	71,902
法人税等	26,095	25,979
少数株主損益調整前四半期純利益	36,385	45,922
少数株主利益	442	336
四半期純利益	35,942	45,586

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	36,385	45,922
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,555	4,411
繰延ヘッジ損益	△695	2
為替換算調整勘定	△17,492	6,277
持分法適用会社に対する持分相当額	△842	1,257
その他の包括利益合計	△20,586	11,947
四半期包括利益	15,798	57,870
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,689	57,957
少数株主に係る四半期包括利益	△890	△87

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	669,909	246,476	70,745	61,456	17,528	1,066,116	-	1,066,116
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,629	3,707	1,542	9	34,876	56,765	△56,765	-
計	686,539	250,184	72,287	61,465	52,404	1,122,881	△56,765	1,066,116
セグメント利益又は損 失(△)	70,130	11,328	2,362	△3,788	484	80,518	△3,734	76,784

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△3,734百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,726百万円、セグメント間取引消去等△8百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	670,784	264,933	73,470	110,358	19,643	1,139,190	-	1,139,190
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,314	3,380	1,413	5	34,689	55,802	△55,802	-
計	687,098	268,314	74,884	110,363	54,332	1,194,993	△55,802	1,139,190
セグメント利益又は損 失(△)	76,622	4,898	1,503	△6,200	72	76,896	△9,215	67,680

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△9,215百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△9,185百万円、セグメント間取引消去等△29百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。